

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494

主張

ビキニ事件当時の資料の 収集と調査にご協力を!

○資料の再調査

去る九月二三日の記念集会のNHKニュースでの報道で、久保山愛吉さんに事件当時、よせられた全国各地からの手紙などの整理と分析を、平和協会が手がけていることが明らかにされましたが、その一部はすでに前号から「平和をねがう人びとの声」として掲載されています。

このような当時の資料の調査に改めて手を染めているのにはいくつかの理由があります。

- ①当時、国民がビキニ事件をどう受けとり、どのように意志表示していたかを知ること。
 - ②ビキニ事件の被災者の代表ともいうべき久保山愛吉さんについて、国民はどう同情と期待をよせていたかを知ること。
 - ③久保山さんの死にたいする国民の悲しみと怒りを知ること。
- そこから素朴な原水爆禁止運動の原点が明らかになります。

動の原点が明らかになります。

○収集と調査の強化を

さらに、当時のアメリカ国民の事件にたいする認識、反応や世界の世論の反響から、ミクロネシア住民の被災、その声なども、もっと多くの資料を集め、または調査することが、私ども平和協会に課せられた仕事だと思えます。

それは、国の内外の各界の有志者のご協力なしには達成できない大事業でありますので、改めて各方面のご協力をお願いする次第であります。

情報、資料、ご著書、何なりとご寄贈いただければ幸いです。私どもは牛歩のそしりを受けても、一步一步、前進する覚悟で居りますことを表明し、ご理解とご支援を期待しています。

展示用組パネル「第五福竜丸」完成

全紙(たて44cm×よこ55cm)パネル9枚で、第五福竜丸の焼津出港から展示館に保存されるまでの歴史をたどる。

- 借し出し料 = 1回1,000円1週間以上3,000円●
- 詳細は第五福竜丸平和協会(521)8494へ●

好評借し出し中!

オートスライド
「第五福竜丸」

<借し出し料>

スライド・シナリオテープ 2,000円
オート・スライド・キャビン 1,000円

NGOシンポジウム二周年記念・合同研究会開く

一九七七年八月に開催された「NGO被爆問題国際シンポジウム」から二周年を記念し、去る九月二九・三〇の両日、東京神宮外苑の日本青年館で「NGO被爆問題シンポジウム二周年記念・合同研究会」が開催されました。

これは、「核兵器禁止をねがう科学者フォーラム」世話人代表五氏などの呼びかけで行なわれたもので、学者、専門家、被爆者など百名を超える人びとが参加しました。

研究会は、科学者フォーラム世話人代表の三宅泰雄平和協会会長の開会のあいさつで始められ、①核兵器の現状、②被爆者

三宅泰雄科学論文集

完結を祝う会開催

三宅泰雄平和協会会長の著作集「三宅泰雄科学論集」全四巻が、このほど完結しました。これを記念して、その完結を祝う会が、九月二九日夜、東京・神宮外苑の日本青年館で開催されました。

田沼肇平和協会理事、服部学

同評議員、川崎健東北大学教授の各氏らのよびかけで開かれたこの会には、広根徳太郎山形大学学長をはじめ、科学者、専門家を中心に各界から多数の人びとが出席、同論文集の完結を祝いました。

編集後記

▼九月末は、のろろ台風のため、ほとんど一週間ふりづめでしたが、十月に入ると、台風一過のことば通り、秋らしい日本晴れに恵まれています。

▼激しかった衆議院議員の選挙戦もやっと終り、これまた台風一過と言いたいところですが、どうやらそうはいかない模様です。与撃党の分野の変化とともに国会でも、政界でも、大荒れ

大漁旗の複製品

寄贈を受ける

現在、展示館に展示されている福竜丸の大漁旗の汚損が激しいので、その製作・寄贈者である昭和鉱油株式会社から、平和協会へその複製品が寄贈されました。平和協会では、これを九・二三集会で紹介。十一月の展示替で一般公開をはじめます。

が予想されそうです。

▼読書、行楽のシーズンに入りましたが、若い人たちが夢の島を訪れ、第五福竜丸の前に、人類の未来について、平和の問題について考え、参考書にも目を通すことを期待しています。

▼ぼっぼっ集団見学の申込みがあります。大空が三六〇度みられる夢の島で、海からの風を腹いっぱい、レクリエーションをかねた見学を計画してください。(H)

連載

平和をねがう人々の声(2)

久保山さんによせられた手紙

児童生徒からの手紙

久保山さんへの多くの手紙を
読み返してみると、子どもたち
の心にふれ、いつも心暖たまる
ものを感じます。とくに、女の
子からの手紙の中には、あこが
れのような気持ちで、久保山さ
んの娘さんたちと友だちになろ
うと望んでいるものがあり、ほ
ほえましくなります。

ゆりの花とみや子ちゃん

松葉小学校

白バラグループ

ゆりの花は言いました。

みやちゃん

元気を出しなさい

お父さんのかんびようを

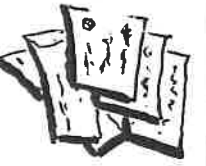
一生けん命やりなさい

ゆりの花は静かな風に

そよそよ ゆられて

言いました

それと対象的に幼いながらも



その時代のつらい風をすでに受
け、同じ苦しむ者として励まし
ている子供たちが多いことに、
驚かされます。それは「戦争」
で父を亡くした子供たちです。

神戸中学校 荒田真一

みや子ちゃん、久保山さんが

なくなられたの、たいへんさび

しいでしょう。みや子ちゃん、

学校へいったら、おとうさまの

ない子といわれてもがまんして、

そんなこといわれたからって、

勉強をなまけたりしては、だめ

だよ。そして、だれよりもえら

い人になって下さい。

おかあさんにも、しんぱいか

けずに、きょうだいなかよく元

気でくらして下さい。

※担任から「荒田君はお父さん

がなく、お母さんが働いています。



水爆被害者さんへ寄せて

静岡県浜松市立北小学校

六年三組 荻野久仁子

楽しかった夏休みも過ぎ、今

私達は、青く青くすみきった空、

さわやかな秋風、すがすがしい

気持ちで二期を迎え、元気に

勉強にいそしんでおります。が、

そんな気持ちの時、ふと国立第

一病院や、東大附属病院の暗い

病室のベッドに横たわっていら

っしゃる久保山さんを始め皆様

のことを思うのです。被爆当時

の事を伺いますと、どうして米

国は、実験するのに日本の漁船

にもっとよく知らせてくれなか

ったのかとくやしくなりません。

其の後のアメリカの態度にも

常日頃の人道主義とちがった事

を云ったり、ほんとうに残念な

ことばかりです。港は、前と同

じ様な平和な秋風が吹いて居る

でしょうに、皆様方のいないさ

みしさは、皆様の御両親やお身

内の方々の心の中を嵐のように

吹いて居ることとおさっしいた

します。私も去年の今頃、紫

病の為、永い間とこについてい

ましたが、そのさみしさと、つ
まらなさ、学友に勉強がおく
れはしないかというあせりで、
よくねむれなくて、父母のやさ
しいかん病となくさめの言葉に
いくど涙を流したことでしょ
うか。どうか、一日も早くよくな
ることを祈っております。

子どもたちがビキニ事件を知
るのは、テレビのない当時、ラ
ジオ、新聞、映画ニュースであ
った。そして原水爆の恐ろしさ
を知るのは、「ひろしま」「原
爆の子」等の映画であり、両親
からの話であることが、手紙の
文面から読みとれます。

しかし、一番の大きな影響力
は教師であることは、手紙の約
三分の二が学校のクラス単位で
送られてきていることからわか
ります。子供たちを愛するため、
世の中の不合理に黙っていられ
ない教師。次回は、そのような
教師からの手紙を紹介したいと
思います。



秋晴れの夢の島で「9・23記念集会」開く

夏のような明るい日射しの九
月二三日、午前十一時から、展
示館前の緑の広場で「ビキニ被
災二五周年9・23久保山愛吉・
第五福竜丸記念集会」が開かれ
若い人たちが約百人が参加し、す
がすがしい集会となりました。

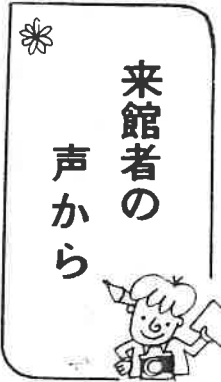
集会は三井周二さん司会のも
とに、久保山さんの碑に黙とう
を捧げた後、三宅泰雄平和協会



会長が「世界の核軍拡競争はま
すます激しくなり、三度の被爆
体験をもつ日本の原水爆禁止運
動の果たすべき役割は非常に大
きい。この機会に決意を新たに
しよう。」と主催者あいさつを
行ないました。

続いて、経過報告にたった広
田専務理事は「一九七六年六月
の展示館開館以来、八月末まで
に一三万人をこえ、一日平均一
三二人もの人びとが見学に訪れ
ている」と、同館が原水爆禁止
運動に大きな役割を果たしてい
ることを強調しました。

来賓として、日本青年団協議
会太田誠一社会部長、日本平和
委員会小笠原英三郎会長、日本
原水協赤松宏一事務局長、日本
山妙法寺の鳥原昭子さんらがあ
いさつ。また歴史学者の梅田欽
治氏も参加されました。なお集
会には、夢の島アピールを採択し
正午に閉会しました。



また、この集会の一部として
午前一〇時から、東京土建労組
および東建従による「増税反対
賃上げ要求」の自動車パレード
出発集会が行なわれ、出発の際
して、広田専務理事からあいさ
つがありました。

今、私たちは被爆者をかかわ
いそうがり、涙を流し、身を震わ
すだけではすまない所に来てい
るのです。

久保山さんの生命はもはや取
り返しはつきません。けれども
今なお広島、長崎の被爆者は病
と生活苦に苦しみ、ビキニ近隣
の住民、数多くの核実験による
無名の被爆者、原発で危険な仕
事に従事し、ガンに冒されている
貧しい労働者たちが世界中で
あえいでいます。

この人たちに對して、何ら救
いの手を差し伸べないというこ

とは、即ち私たちが彼らを殺し
ているということになるのでは
ないでしょうか。同情もしい、
けれど、今や一人一人が立ち上
がろうではありませんか。

学生・19才・原沢政恵

夏休みの宿題にと思い、子供
達(小四・小六)四人をつれて
来ました。子供達は私の説明と
写真とで大変なショックの様子
でした。子供の心は清いもので
す。大人達は勝手な利己心から
このようにすばらしい地球をこ
わすことを考え実行しているの
です。人類は皆、平和と安全に
守られて暮らせるように、神は
備えられました。どうして、神
への感謝から創造物を大切にす
るという思いを持つことができ
ないのでしょうか。子供達にと
って、大人が良い見本を示すこ
とが出来ないのは、残念に思
います。

立川市・主婦

